



洋書輸入協会会報

Vol. 30 No. 7 (通巻350号) 1996年7月

ABA コンベンション 1996

雨のシカゴの夜は更けて——ABA 奮戦記

三省堂書店 小橋 謙一

シカゴ・ブルースをバックグラウンドに聞きながら筆をとる、といったほどのカッコ良さも、余裕もなく、更にこの2週間ウインブルドンのテレビ観戦のために眠い眼を擦りつつ、雨のシカゴを思い出しながら書き綴りました。

2回目の開催のシカゴは、雨が多くまるで日本の梅雨をそのまま持って来たみたいで日本の空梅雨が嘘のよう。馴れてくると、シカゴはカポネとフレンチ・コネクションの怖いイメージは払拭され、明るいいい街になってきたと思います(ホテルで泥棒に侵入されたなんてお仲間もいらしたとかききましたが)。幸い今回はブルズの優勝の瞬間を現地のファンと共有できました。

しかし、このままシカゴが続くと、海外からのビジターは減少するのでは、と余計な心配もしたくなってきます。中にはマイアミやラスベガスだのがよかったなあという族が出てくるのでは。さて、今回のABAの入場者は38,000人で昨年並みと報告されていますが、私の記憶では昨年は42,000人であって史上最高といわれていたはず。関係者に話を聞いてみても今回は色々な意味でちょっと寂しいと言う人が多かったようです。最終的な数字などは7月8日号のP. W. をまたねばなりません、ただ、昨年の大きな問題は十分解決した模様です。

1. 食事場所の不足——通路の絨毯でピザを頬張る姿はあっても昨年ほどではない。

2. 会場内のサイン、ブース等の案内不足——各ブースの番号ははっきりとして解りやすい。
3. 交通のアクセスが悪かった——今年はシカゴ・ブルース・フェスが無く順調、ただし会場の近くが工事中で道路は非常に荒れていた。
4. レジストレーションの大混乱——私は事前登録をしたが、朝9時頃のチェックインの様子は見た眼には混乱はないようだった。苦労した方がいらしたらお教え下さい。

しかし、今年もまた問題は発生したようです。

1. 開催日が先例のないほど遅くなったこと。(例年の期日にはコンピュータ関連のフェアが優先されたとか)主催者は今回は例年通りに戻すといっている。
2. 大手出版社の離脱が今年も続いた。(ランダムは未だ係争中とか)——しかし相変わらず入口近くのブースは巨大化している。日本関連では、常連の日本出版貿易は出展せず。
3. メイン会場のノース・ビルとイースト・ビルとの距離、今回児童書コーナー、Small Press, ニュー・メディア等は遠く離れたイースト・ビルへ追いやられたというイメージが強い。来年はサウス・ビルが完成とのこと。全出展者が一つ屋根の下に集結する。

予想とは違ってCD-ROM 関係の出展はあまり魅力

目次

ABA コンベンション 1996.....1	URL の探し方4	出版文化史追憶(7)7
うちの会社2	文化厚生委員会だより5	広 告8
新理事長就任の挨拶3	服部正喬翁を悼む6	

のあるものでは無かったと思います。出展社数もほぼ昨年並み、派手さは消え、覚めた感じを持ったのは私だけでしょうか。コンピュータ・フェアとの関連か、中にはCD-ROM だけ展示し、デモもしていないブースさえ見られました。大手出版社も昨年あれだけ張り切っていたCD-ROM 出版に影があり、今後の行く末に一抹の不安

を感じてしまいました。

余談ですが、ニューヨークのシェイクスピア・カンパニーは8月で閉店します。昨年スーパーストアの隣で頑張っている姿に感銘を受けましたが、大きな波には勝てなかったのでしょうか。今後の独立書店の動向をしっかりと見つめていきたいと思います。



うちの会社

内外交易株式会社

内外交易株式会社は、私の父山縣有光が、昭和28年（1953年）6月に創業いたしました。旧陸軍の軍人であった父は、前年の昭和27年に、アメリカ占領軍によるパージが解けたばかりで、今後は文化的な仕事を通じて、新生日本のお役に立ちたいと願いを込めて、第二の人生として選んだ道でした。

戦前の日本に欠けていたものは、外国についての多面的な情報である、ということを経験して来た父は、国内には外国の最新の情報を提供し、国外には日本の正確な姿を伝えることを、内外交易の業務の使命とし、書籍・地図の輸入を始め、後にはこれに、地図の輸出が加わりました。武士の商法ながら、幸にも人に恵まれ、事業は少しずつ進展し、昭和33年には洋書

輸入協会にも加えていただき、お陰さまで、本年44年目を迎えることができました。

私共のお客様は、大学、専門学校、国公立図書館等が殆どで、医学書から文学・語学テキストまで御注文に応じて取り扱いますが、私共の専門とするところは、地図、アトラス、地理学関連分野です。地図は日本の国土地理院に相当する各国のお役所が刊行する官製地図に、アトラスは各国の国勢地図帳に、力を入れております。

御多分にもれずここ数年、私共もリストラに励んでまいりましたが、それも限度に達し、創業44年目にして私共は、創業当時の志を汲みつつも、第二の創業に取り組んでいるところです。（山縣彌榮子）

鈴木信夫氏理事長に就任

6月30日付けで理事長海老原熊雄氏（丸善会長）が辞任し、新たに鈴木信夫氏（丸善社長）が理事長に就任されました。

海老原前理事長は7年の長きにわたって、洋書輸入協会を代表し、その指導にあたってられました。

長年のご苦勞に対して心より厚くお礼申し上げるしだいです。

洋書業界は今厳しい時代等の言葉では到底言い表せない“生き残りが精一杯の時代”という未曾有の受難期を迎え、共存共栄からとするとその方向を見失う様相さえ窺えるようです。

この時期に鈴木新理事長の新しいご指導を待つ点が多々あることと思います。新理事長から以下のご挨拶をいただきました。（会報委員会）

新理事長就任の挨拶

このたび、丸善株式会社海老原熊雄会長の相談役就任を機会に、洋書輸入協会理事長の任を引き継ぐことになりました。

前理事長は、1989年に就任されて以来今日まで7年間にわたって重責を担われ、業界の発展に貢献されました。会員の皆様とともに心から謝意を表する次第です。

さて、ご高承のとおり洋書輸入協会は「海外出版物輸入同業会」という名称で、1941年に発足して以来半世紀を超える歴史を誇っております。会報に連載中の「洋書輸入協会史」はこの歴史の証言録としてたいへん貴重で



あり、毎号興味深く拝見しておりますが、このところ情報メディアの多様化と通信技術の開発が急速に進み、もはや伝統的な概念では「本」も「書店」も語れなくなる、と言われる時代にまで至っています。洋書業界に属している個々の企業が自らの生業を改めて見直すことを迫られています。この時にあたって、戦後の洋書輸入再開、業界再建と拡大へ向けての先輩方の血のにじむような努力と、それを可能にした強固な意思を再び私たちは持つ必要があるように思います。

会員の皆様と力を合わせて業界の存続と発展に邁進いたしたく、ご支援とご協力をお願いしてご挨拶いたします。

丸善株式会社

取締役社長 鈴木 信 夫

東京税関東京外郵便出張所の人事移動

平成8年7月1日付にて、東京税関東京外郵便出張所の人事移動が行われました。

既に通関協議会の会員の皆様へは直接、新しいメンバー表が送られましたので、ここでは、今回の移動により新しく就任された皆様のご氏名のみをお知らせします。

所 長	栗 山 保	輸入通関第6部門 統括審査官	秋 山 晴 茂
総 務 課 課 長	長 谷 勝 之	輸入通関第10部門（新設） 統括審査官	茂 原 正 道
輸入通関第1部門 統括審査官	小 高 信 夫	税関相談官	武 石 辰 弥 東 樹 昭 道 （敬称略）
輸入通関第2部門 統括審査官	福 井 一 夫		

URL の探し方

丸善株式会社 松田和之

1996年6月の今、新聞を見ても、TVを見ても、雑誌を見ても、とにかく全てのマスコミに何らかの記事としてインターネット関連の話題が取り上げられており、インターネットの認知もここまで広がったのかという感が否めません。

とはいうものの、インターネット自体の理解が不十分であったり、具体的な利用方法が分からないという理由から、インターネットの利用を躊躇したり、あるいは他人事のように思っている人々も多いのではないのでしょうか。たしかに、その普及率は携帯電話やPHS、ポケベルには及んでいないことも事実のようですが、インターネット接続を前提とした高性能なパソコンがますます安価で提供され、バンダーもその料金とサービス内容にしのぎを削っており、年末までには普及率の大幅な上昇が想定されるところです。

企業では各種情報収集や自社の宣伝媒体、電子商取引の実験等様々な利用が盛んに行われており、個人でも情報収集やインターネットショッピングの利用の他に、個人のホームページを開設するなど、新たな世界が構築されつつあります。リアルワールドとサイバースペースの往来がいよいよ現実味を帯びてきています。

言うまでもなくインターネットは国、地域、企業、個人、公的機関を越えた共通の情報通信手段と情報通信形式を有しています。小規模な企業でも、はたまた個人でも、インターネットを有効活用することで既存の経済原理を覆すことも、生活を新たにすることも可能なのです。

まず、情報収集の最良の手段としてインターネットを利用することをお奨めします。どんな情報がみられるのか分からない、ほんとに役立つ情報があるのか分からないという疑問も当然のことと思いますが、URL探しに精通することによりその悩みは解消されます。

インターネット上に存在する様々な情報を参照するためには、情報が格納されているURL (Uniform Resource Locator) をネットスケープ等のブラウザーで指定しなければなりません。一般的なURLは次の通りです。

<http://www.maruzen.co.jp/index-j.html>

①

②

③

①リソース名 (プロトコル名)。見たい情報を参照する際に使用するプロトコルの種類を指定します。http (Hyper Text Transfer Protocol) は、Web上のファイルであることを示します。

②サーバ名。情報を公開しているサーバの名前です。

③パス名。参照したいファイルが存在する場所 (パス名) を指定します。ファイル名の場合もあります。

具体的には、ディレクトリサービス、あるいはサーチェンジンと呼ばれるサイトを利用することにより、日々新設されるホームページを探し出したり、未知との遭遇など新しい出会いが生じることでしょう。

(例)

<http://www.ntt.jp/SQUARE/index-j.html/>

<http://www.nikkei.co.jp/ss/>

<http://altavista.digital.com/>

<http://www.iijnet.or.jp/cs/j/>

この他、雑誌、新聞からURLを知ること大いに役立ちます。ワインのラベルなどにURLを印刷するなど、製造あるいは販売元のURLが明記されている商品も増えています。

インターネットでは、毎日数多くのホームページが新設されています。また、既存のホームページのコンテンツも随時更新されています。気に入った、あるいは必要なURLをブラウザーのブックマークに登録しておけば、必要な情報を必要な時に確実に入手できるはずで

まず、情報収集からチャレンジしてみてください。

JBIA DIRECTORY 1996

(洋書輸入協会ダイレクトリー1996年版)

25.7×18.2cm 284頁 会員価格 2,500円 (送料共)
一般価格 4,500円 (")
海外価格 8,000円 (")

釣り同好会報告書

6月15日(土)春の例会としてシロギス釣り大会が開かれました。

日ごろ仕事上で顔も合わせない人が、呉越同舟よろしく腕自慢の15人が乗船し、茅ヶ崎港を出港しました。

天候は曇り、海はおだやかでしたが、最初のポイントに止まり、船長の釣り始めの合図で一斉に竿を出しましたが、第一ポイントは、一匹もあがらず船を移動し、第二ポイントに変わったとたんに船尾の方から声が上がリ、本命のキスが釣れ始めました。

船首の方では、前の晩の飲みすぎか？ 船酔者も出ましたが、釣竿だけは出していたようです。

11時すぎ最盛期に入り、五目釣りよろしく本命のキスを初め、メゴチ、アジ、飯ダコ、サメ、ホウボーと多彩の魚を釣り上げ、3時納竿となりました。

釣果成績は、下記の通り

優勝	塚 本氏 (大洋 交易)	26匹
2 位	鶴 氏 (東亜ブック)	25匹
3 位	広 瀬氏 (大洋 交易)	24匹
4 位	酒 井氏 (トッパン)	21匹

後記：塚本氏は今回張切って、なにがなんでも1位に

なると言う事で前の週にトライアルをしたそうで、その努力がむくわれたものと思います。

前回の上位入賞者の2人、石川氏(内外交易)、若松氏(南江堂)が欠席されたのが残念です。 以上

(洋販 今井記)



第 80 回 72 会ゴルフコンペ

関越ハイランドゴルフクラブ 1996年7月3日(木)

関越練馬インターから快適に車を飛ばして約60分、グリーンのじゅうたん、軽井沢を思わせるさわやかな風、うすぐもりの空、絶好のゴルフ日和りの中、16名のお仲間と楽しい一日を満喫しました。プレーは斉田さん(三善)のユーモアあふれる初参加スピーチでスタート、村上さん(東京ブックランド)の第1打はhang-over 230ヤードのドラコン賞、神田さん(事務局長)はパーが1ツとれてゴキゲン、石原さん(医学書院)はゴルフ仲間に逢えて楽しそう、佐川さん(三善)は前泊のお酒が残っていたのか…、村上さん(ゲーテ書房)は当人にとって満足なスコア、尾内さん(丸善)はあと少しでBB賞のがしました。山田さん(東京ブックランド)は昔のスコアに逆もどり、和田さん(大洋交易)は40台も出しました。池田さん(極東)はあと一歩、斉田さん(三善)は安定したスコア、次回の優勝候補、西山さん(西山洋書)の最終18番ホールのパーディはお見事、三宅さん(丸善OB)のハーフ38、ベスグロ、2位には頭が下がります。優勝はパートナーとハンデに恵まれ、空振りし

なかった新文化厚生委員長トッパンの関野さん御目出とうございました。にぎやかなパーティの途中で、大雨と雹が降り出して帰れなくなり全員にスピーチをいただき、次回の72会は竹村さん(丸善OB)のホームコース玉造10月17日(木)に決まりました。

成績表		グロス ハンデ ネット 新HC			
優勝	関野 元(トッパン)	110	36	74	29
2 位	三宅昭三(丸善OB)	82	7	75	6
3 位	鶴 園江(東亜ブック)	111	36	75	32
4 位	西山久吉(西山洋書)	94	16	78	
5 位	竹村政彦(丸善OB)	91	12	79	
ドラコン	村上道夫(東京ブックランド)				
	和田 茂(大洋交易)				
	鶴 三郎(東亜ブック)				
ニアピン	三宅昭三(丸善OB)				
	池田篤治(極 東)				
	鶴 三郎(東亜ブック)				
ベストグロス	三宅昭三(丸善OB)	グロス 82			

(記：東亜ブック 鶴)

服部正喬翁を悼む

—100歳と8ヵ月の生涯—

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

JBIA 会報に「100歳おめでとうございます。服部正喬さまの長寿を祝う」と題する祝辞が載ったのは、昨年の10月号であった。そこには歌人秋山昭夫氏が、「頌」として心のこもった二首の短歌を献じている。翁にとっては何よりのお祝いとなったことであろう。それが年の明けたこの6月3日に急逝されたことは、全く思いも掛けないことであった。

100年を生きるということは、私自身が75年間を生きてみて、どんなに大変なことであったかと実感する。それも明治・大正・昭和・平成と大戦争、大変動を経て、その間会社を経営しながら、健康で元気に生き抜いて来られたのである。全く奇蹟を見るような思いがある。

始めてお目にかかったのは、昭和20年代の終り頃であったから、今から40年以上前になる。不思議なことに、40年以上前の翁の印象と、5年前の洋書輸入協会の創立50周年記念行事で特別功労者として表彰され、翁が謝辞を述べられたときの印象とにほとんど差がない。洋書一筋に生きてこれ、いつも端然としておられるそれである。

それにしても、50周年の折の翁の謝辞は、堂々として声に張りがあり、とても95歳とは思えなかった。聞いた一同が終了後に感嘆していたことを思い出す。

昭和20年代から30年代を経るうちに、いくつかの景気の波を体験したが、昭和41（1966）年から45（1970）年まで続いたいざなぎ景気で、日本の外貨事情はすっかり立ち直った。それまでの洋書輸入業は、基本的には外貨不足のためにがんじがらめの規制を受けており、洋書輸入協会の理事会は、大蔵、税関、通産、郵政、文部などの各省への陳情と懇談を繰り返していた。現在からは考えられないような状況である。問題があると理事一同で出掛けるのであるが、このとき翁の存在は全く欠かせないものであった。協会設立以来の理事である翁は、大学教授（或いは学長）にしか見えず、丁々発止の議論は我々若い者に任せつつも、ここぞというとき一席の演説をぶたれる。妙なもので官庁側も自然に拝聴する形になる。人徳というものであろうか。

昭和46（1971）年にニクソン・ショックがあり、円が

変動相場制に移行するが、これから後は漸次政府の規制も減少し、理事会の取り組み問題も変わってくる。翁もこの前後から次第に専務であるご子息の貞夫氏に権限を移譲して第一線から退かれるようになった。

それでも翁はやはり人の親、貞夫氏のことをいつまでも心配し、私の顔を見ると、息子をよろしく頼むとおっしゃっていた。私とその都度貞夫さんはいつも立派にやっておいでですと言うと、そうですかとアルカイクな微笑を浮かべ、嬉しそうに頷いておられたことを思い出す。

翁は明治28（1895）年の生れ、日清戦争が済んだ年である。骨の髄まで明治の人であった。翁の下腹は、へそのあたりから下が、固く膨れていた。お相撲さんのように、みぞおちから下が丸く膨れているのとは全く違う。私の父が明治6（1873）年の生まれで、剣道の達人であったが、やはりへそから下が固く膨れていた。これは古武士の象徴のようなもので、臍下丹田に常に力を籠めて、折りあらば静坐を続け、無念無想の境地に至っているとこのような形になるらしい。大正以後の生れの者には、全く見かけないものである。翁のような生き方には、もうお目にかかれないかもしれない。

翁の思い出は尽きない。告別式のときに飾られていた写真には髭が無かった。やっぱり髭があった方が、服部さんらしいがと、皆でヒソヒソと話し合ったことである。

翁のご冥福を祈りつつ、思い出の文を綴りました。

（以上）

総代理店ご案内

ユニテッド・パブリッシャーズ・サービス社

Tel.(03) 3291-4541

Fax.(03) 3293-3484

Taylor & Francis Ltd. (U.K.)

総代理店

Falmer Press (U.K.)

総代理店

Frank Cass & Co. Ltd. (U.K.)

総代理店

シーボルト将来本〔3〕

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆シーボルト第1回来日と搬入書籍(3)

シーボルト事件の結果彼は幕府より国外追放(国禁)の処分を受け1829年に日本を離れるが、ともあれ、主題のシーボルト将来本について話を進めよう。

冒頭で触れたように、シーボルトは来日に当たって日本の調査・研究に必要な参考図書をヨーロッパや前任地のバタヴィアから送らせたが、その内容を蘭印総督官房長へ報告した覚書(勘定書)は「1923年ヨーロッパとバタヴィアから送らせ、この年に受け取った本の覚書」と表題が付されて、著者・署名のほかに購入金額が記されている。そして、末尾には金額の合計1,250.16フローリンと1825年の日付、さらにシーボルトの署名がある。ここでは竹内精一氏の論文「1823年シーボルトが欧州とバタヴィアから舶載させ25年長崎で受け取った書籍とその後の運命」(『日蘭学会会誌』第15号)に基づいて、その内容を追ってみることにしたい。

リストには43点(42タイトル)の書籍が列記されていて、言語としてはドイツ・オランダ・フランスがほとんどで、分野別には、植物12部、動物7、自然誌3、医学・比較解剖学4、地理紀行4、そのほかに物理・化学、地質、鉱物学、天文航海、政治、人類学などが含まれている。博物学関係の書籍が圧倒的に多く、このリストを見ると、彼が日本のどういう点に関心をもって調査しようとしていたのかが、ある程度理解できるのではないだろうか。大部分著名な学術文献であるが、以下特に重要なものを拾って大雑把に紹介してみることにしよう。

始めて植物分類法(リンネの体系)を大成したスウェーデンの植物学者リンネの著作がこのリストの中に見られるが、シーボルトが持ち込んだのは、新種が加えられた後継者による改定増補版の『植物分類体系』である。スイスの植物学者ド・カンドル(A. P. de Candolle)の著作も3点見られ、その中で『植物界の自然分類序説』は全世界の高等植物の自然的分類を試みた意欲的な著作で、後継者への影響の大きかった本である。フランスの動物学者キュヴィエ(G. L. C. Cuvier)はナポレオンに重用されて一時教育行政にも参与したが、動物学上の業績としては動物界を体制により脊椎・関節・軟

体・放射の4群に分ける動物分類を創始したり、古生物学を独立の学問として基礎づけるなどの功績者で、シーボルトは『体制により分類された動物界』(1817)や『比較解剖学講義』(1800-05)を搬入した。ダーウィンの進化論の先駆者となったフランスの博物学者ラマルク(J. B. P. A. de Monet, Chevalier de Lamarck)の『無脊椎動物の体系』(1801)も見られ、これはラマルキズムと呼ばれる彼の進化論が開陳された著作である。また、フンボルト(A. von Humboldt)の著作も4点収録されている。彼はドイツの著名な自然科学者・地理学者で植物地理学を確立し、また18世紀から19世紀にかけての有名な旅行家であった。4点の中では特に『1799-1804年に行われた新大陸赤道地方への旅行』はダーウィンに影響を与えた著作で、1811-26年に全30巻で刊行されたうちシーボルトが持ち込んだのは1814-25年刊の3巻であった。ドイツの著名な植物学者・医学者シュプレングエル(K. P. J. Sprengel)の著作が3点載っているが、その中の『植物知識入門』はシーボルトが江戸参府の折りに宇田川榕庵に贈呈した本であった。榕庵はシーボルトとの交流で得た知識を基にして、1833(天保4)年に『植学啓原』を著した。この本は本草学ではなく、近代科学としての植物学を解説した日本で最初の出版物であるといわれている。ドイツの博物学者ネース・フォン・エゼンベック(C. G. Nees von Esenbeck)の大著『植物学便覧』(1820-22)、やはりドイツの哲学者で博物学者オーケン(L. Oken)の著作『博物学教科書』、ドイツの医者で人類学者ブルーメンバッハ(J. F. Blumenbach)の人類5人種説を始めて論じた『人類の生得の多様性』、そのほか、フランスの自然科学者で国務大臣まで務めたラセペード伯爵などの著作が含まれている。また探検記の古典的文献で、フランスの探検家ラ・ペルーズ(J. F. de Galaup, Comte de La Perouse)の航海記録によって編纂された『ラ・ペルーズ世界周航記』(原著フランス版1797)のアムステルダム版(1801-04)も見られる。彼は日本近海の探検も行い、日本海を北上して韃靼海峡(間宮海峡の旧称)を調べ、宗谷海峡を通過して千島列島沿いにカムチャツカへ向かっている。

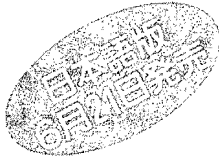


Harvard Business School

Management Programs

このマネジメント・プログラムは、マイケル・E・ポーター教授をはじめとするハーバード・ビジネススクール他の当代一流の教授陣が提供するもので、既に米国では教育機関、企業のトップ・マネジメント等より絶大な支持を受けているものです。

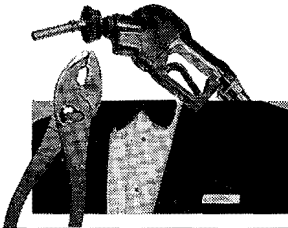
ハーバード・ビジネススクール・マネジメント・プログラム



ベンチマーキング BENCHMARKING

ロバートJ.ヒープラー(アーサー・アンダーセン)

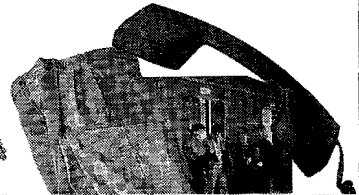
最高のものに学ぶベンチマーキング。それは他社に学び優良企業になる方法！



Benchmarking
Outside the Box



Benchmarking for
Continuous Improvement



Benchmarking
Core Processes

異業種に学ぶ ベンチマーキング

モービル石油は世界トップクラスの顧客サービスを誇るリッツ・カールトン・ホテルとホームデポをベンチマーキングの相手とした。

継続的な改善のための ベンチマーキング

アメリカン航空とエイビスから得られた洞察力は、サンヘルズ連合が創造的ベンチマーキングシステムを造る力となった。

コアプロセスの ベンチマーキング

GTEは、ランズエンドとオーティスエレベーターに学び、顧客ニーズを素早く解決する企業に変貌した。

英語版(6月1日発売) 3巻セット価格 ¥178,000 / 各巻 ¥80,000

日本語版(6月21日発売) 3巻セット価格 ¥198,000 / 各巻 ¥98,000

○ビデオは、音声多重方式(主音声に日本語、副音声に英語)で録音されています。
○日本語版パッケージの副次教材はいずれも英文/和文各1部ずつ付いております。

●お問い合わせは下記へ



ハーバード・ビジネススクール
マネジメント・プロダクションズ日本総代理店
株式会社 グローバルメディア・システムズ
〒105 東京都港区浜松町2丁目5番5号松井ビル
(営業本部) TEL.03-3433-4375
FAX.03-3437-1778

1996年7月 通巻第350号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社